

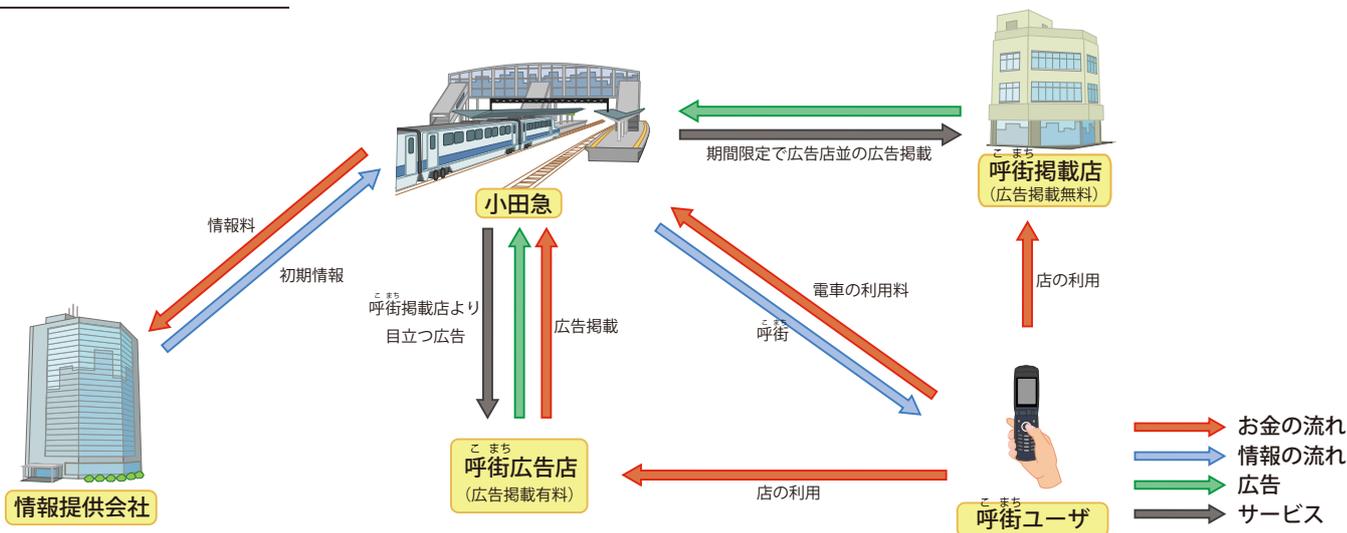


街探索支援アプリケーション 『呼街』

ビジネスモデル

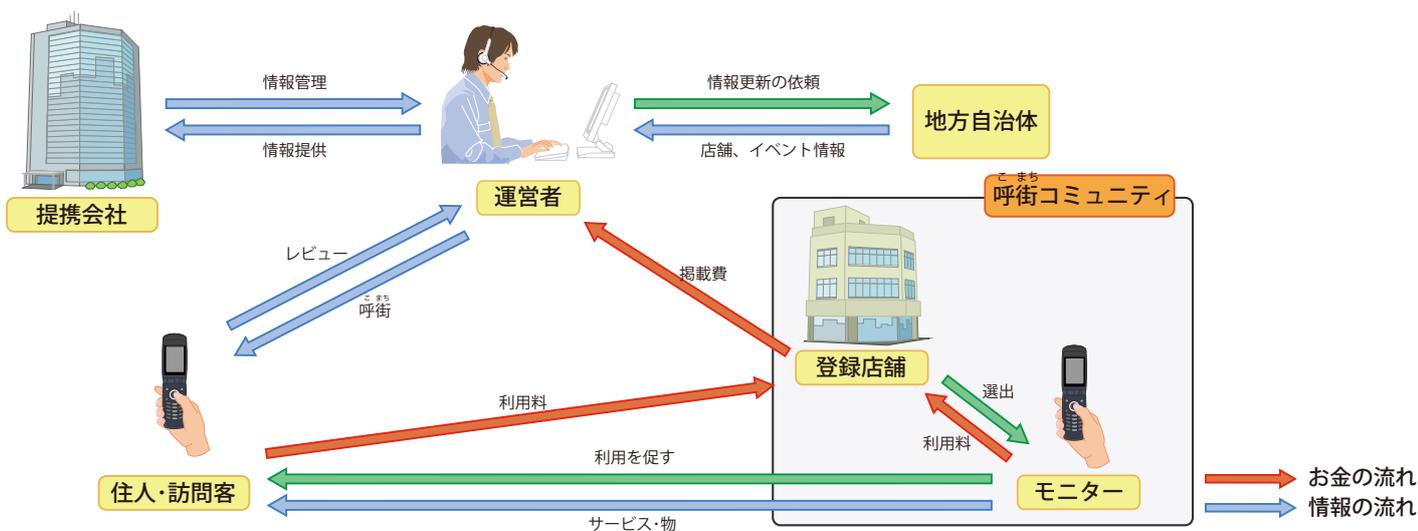
Business method

鉄道会社モデル



これは鉄道会社の収益増加を狙ったビジネスモデルである。民間鉄道会社は駅周辺にお店や百貨店などを展開することで街の活性化を行い、それによって、自社の鉄道事業の収益増加を見込んでいる。このビジネスモデルは『呼街』を導入し、ユーザが『呼街』を使ってお店を利用することで、駅周辺の店の顧客を増加させる。また、街の人口の増加や鉄道の利用客を増やし、鉄道会社の利益の増加を狙う。これにより、街に行くための交通手段として鉄道が積極的に利用され、結果的に鉄道会社の利益が増加することを目標としている。

地方自治体モデル



これは、『呼街』を地域密着型のサービスとすることで、街の活性化を図るビジネスモデルである。このモデルでは、地方自治体が一方向的に店の情報を集め、サービスを展開していくのではなく、その街の店、そして住人とも多角的なコミュニケーションを取りながら協力して、街の良さを街の住人や街の外部の訪問客へと広めていく手助けとして『呼街』を使用してもらう。街は、『呼街』を通じて、店や開催イベントへの集客をすることで人を集め、そのことにより街が活気付き、現在、多くの街が抱える店の後継者問題やシャッター商店街などの問題の解消を狙う。最終的には、良い循環が生まれ出されることを目標とする。